



シリーズ

武雄の治水

vol.16

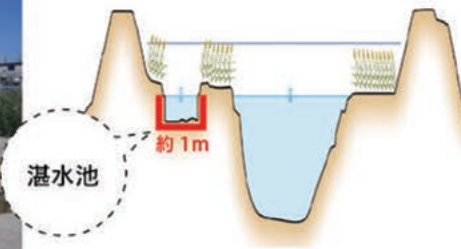
～水と共に生きるまちへ～

今回のテーマは **六角川の湛水池**

六角川で見かける四角い池（湛水池）はどのような目的で作られているのでしょうか。今回、改めて詳しくお知らせします。

湛水池の目的

密集して生育している背の高いヨシは、洪水時に流水の大きな抵抗になります。「湛水池」は、このヨシを育ちにくくするためのもので、川の平らな部分を1m程度掘って水を貯めています。生育を抑制することで、**河川を流れやすくし、洪水時の水位を低下**させます。環境保護の観点から、水際部にはヨシ原が残されています。



大潮の時に、この部分から池に水が入るように高さが決められています。



大潮の時に、流入口から水が入り、水が入れ替わっています。

池周りは、杉の丸太と板で囲い、流入口は約2mのブロックで保護しています。

POINT!! コンクリートなどは使用されず、環境面にも配慮された施工方法が採用されています。

NEWS

焼米ため池の事前放流施設が完成しました

6月9日(金)、焼米ため池の事前放流施設操作開始式が行われました。これは、佐賀県による内水対策プロジェクトの一環で進められ、水利権を持つ白石土地改良区のご理解・ご協力があったからこそ実現した流域治水の取り組みです。これにより、大雨前の事前放流や、大雨後に次の雨に備えた速やかな放流をすることが可能となりました。ため池の洪水調節容量(空き容量)を今まで以上に確保しやすくなり、周辺の浸水被害が軽減されることが期待できます。



▲左から小松政 武雄市長
山口祥義 佐賀県知事
田島健一 白石町長



▲山口県知事の合図で、ゲートが開いた。平均2.3 m³/sが排水される。

排水機場操作員の安全確保に向けて

5月22日(月)、排水機場操作員の安全対策などについて検討する実務者会議が武雄河川事務所を主体として発足されました。3月に排水機場の操作員を交えた意見交換会が行われ、現場での課題などが挙げられており、それらの課題を解決するための組織として、排水機場の施設管理者や、佐賀県、流域市町の実務担当者で新たに立ち上げられたものです。今後は、排水機場の操作技術講習会や、緊急時の退避タイムラインの作成などに取り組む予定となっています。

田んぼダム 拡充しました！

今年度も、上流域の農業者の方々のご協力により、田んぼダムに取り組んでおり、六角川流域だけでなく、松浦川流域でも実施していただく予定です。地域全体の取り組みが浸水被害の軽減につながっています。



どんな効果があるの？

田の排水口に切れ込み穴を開けた調整板を設置し、大雨時の雨水を一時的に田に溜めることで、水路・河川へ流れる水の量を抑制する効果があります。

令和4年度

164ha

令和5年度

最大192ha

詳しくは 企画部 治水対策課 ☎0954-27-7097

シリーズ武雄の治水 バックナンバーはこちらから▶

